

鷹巣子ども教室が開講

児童たちの放課後の居場所づくり



←開講にあたり児童や保護者らにあいさつする中橋教育長

放課後、児童の面倒を見てくれる仕組みが無かった鷹巣小学校（内野眞校長・児童181人）で

5月7日、『鷹巣子ども教室』が

開講しました。

この教室の目的は「子どもたちの居場所づくり」で、放課後に音楽室や図工室などの余裕教室を活用します。予習・復習等の学習の場、スポーツ・文化等の体験

の場、地域の人や異年齢との交流の場、お手玉やメンコ等をする遊びの場など、子どもたちに安全で健やかな居場所を提供します。

同校音楽室で行われた開講式には、この教室に通う48人の児童たちとその保護者らが出席。中橋藤七教育長が「前例のない活動で、試行錯誤の中で運営していくことになりましたが、理想的な教室にしていきたい」とあいさつ。続いて児童の面倒を見てくれる指導員4人が紹介され、同教室はスタートしました。

鷹巣子ども教室の竹島憲和委員長は「手探りの状態でのスタートとなりますが、子どもたちにはそう経験できない貴重な体験を楽しんでもらいたい」と話していました。

毎年7月は

“**社会を明るくする運動**”

強化月間です

標語

防ごう犯罪と非行

助けよう立ち直り

重点目標

犯罪・非行の防止と更生の援助のため、地域住民の理解と参加を求める

“社会を明るくする運動”は、すべての国民が、犯罪の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動です。
家庭の対話を充実させて犯罪や非行を未然に防止しましょう。